

## 答辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じられる季節となりました。本日は、私たち卒業生の為にこのような素晴らしい卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、この災禍の中ご臨席賜りました皆様、そしてライブ配信でご覧になっている皆様にも、卒業生一同厚く御礼申し上げます。

月日の流れは早いもので、これから始まる大学生活への期待と不安を胸に抱き、この講堂で入学式を迎えてから四年が経とうとしております。武蔵大学で過ごした四年間は、多くの経験と学びに満ちあふれたものでした。特に、リモートで授業を受けることになった最後の一年間は、キャンパスで過ごした何気ない日々に関心を馳せることもありました。

私は社会学部メディア社会学科に所属し、さまざまなゼミや講義での学習を通して、自分の身近にある事象を社会学の理論に当てはめて考えるというところに学びの楽しさを見出しました。社会学の観点から批判的にその事象を見つめ直し、共に学ぶ仲間達と意見を交わし合うことで、自分の世界がどんどん広がっていくように感じました。その集大成として、自分の大好きな音楽コンテンツについての卒業論文を執筆しました。ほぼ前例のない題材だったため、苦労も多くありましたが、指導教授をはじめとしたゼミの仲間達のおかげでやり遂げ、大きな達成感と自信を得ることができました。

課外活動では、漫画研究会に所属し、部員達と創作活動に打ち込む日々を送りました。また、三年の時には会計責任者として、部長や副部長とともに多くの困難を乗り越えながらサークルを運営するという貴重な経験をしました。そして何より、このサークルのおかげで、楽しいことやつらいことを共有できる大切な友人達と出会うことができました。

今、卒業という節目を迎えるにあたり、ここにいる一人ひとりが様々な気持ちを胸に抱いているかと思えます。しかし、この別れの先には新たな出会いがたくさんあります。四年間で得た経験や思い出は大きな財産となり、これからそれぞれの道を歩もうとしている私たちの背中をきっと押してくれるでしょう。武蔵大学で学んだことを誇りに思い、支えてくださった方々への感謝を忘れず、日々精進していくことをここに誓います。

最後になりましたが、諸先生方のご指導、職員の皆様のご支援、そしてどんなときも近くで支えてくれた家族や友人たちのおかげで、本日、この卒業の日を迎えることができました。卒業生を代表して、支えてくださった全ての方に心より御礼申し上げます。以上、皆様のご活躍と武蔵大学のさらなる発展を祈念いたしまして、つたない言葉ではございますが、答辞に代えさせていただきます。

令和三年 三月二十二日

武蔵大学社会学部第二十回 卒業生代表  
社会学部メディア社会学科 尾形萌花